

降雪・低温に伴う農作物等の管理対策

平成31年 4月26日

新潟県農林水産部

4月25日15時11分に新潟地方気象台から発表された「雪に関する新潟県気象情報第1号」によると、27日はこの時期としては強い寒気が入る見込みで、標高の高い地域などでは積雪となる恐れがあります。また、「北陸地方週間天気予報」によると向こう一週間の期間のはじめは最高気温・最低気温ともに平年より低い日が多く、かなり低い日もある見込みです。

については、下記の管理対策を参考として今後の農作物等の管理に十分注意してください。

1 水稲

- (1) 無加温で出芽中、または緑化中の苗は、最低温度が10℃以下にならないよう、被覆資材の追加や暖房等による保温対策を実施する。
- (2) 出芽を終了した折衷床の中苗は、水位を上げて一時的に箱上まで湛水する。
- (3) プール育苗や硬化期の後半であっても、低温時は育苗ハウスのサイドビニールを閉じる。
- (4) 田植えは天候が回復した後とする。既に田植えが済んでいるほ場では、深水による保温的水管理により、植え傷みを防止する。
- (5) 標高の高い地域などでは積雪となる恐れがあるため、ハウスの積雪や周囲の点検を十分に行い、損傷等が生じないように必要に応じて除雪する。
- (6) また、高標高地の露地プール育苗では、一時的に水位を上げるとともに、被覆資材の上に積もった雪は速やかに取り除く。

2 野菜

(1) 施設野菜

ア 施設栽培のトマト・きゅうり等では、温度保持のため、夕方早めに内張資材を被覆して日中の余熱を確保する。

保温的管理により施設内等が多湿になると、灰色かび病等の発生が懸念されるので、花びらとり等の耕種的防除を行うとともに、薬剤散布を行う。

イ ハウスすいかでは、交配当日が低温の場合、ハウスサイドの換気をやや遅めに、湿気を抜く程度とする。午後は早めにハウスを閉め、保温管理とする。

交配後10日間は低温・乾燥により裂果が発生するため、夜間保温・保湿に努める。着果確認後は徐々にかん水量を増やし、初期肥大を促す。

(2) 露地野菜

ア トンネル栽培では、夜間の温度確保のため夕方早めにトンネルを閉める。

イ 定植を予定している品目は作業を延期し、温暖な日に定植作業を行う。

定植後の場合は、べた掛けの被覆資材を活用し保温する。

3 果樹

(1) 開花期を迎えるハウスぶどうでは夜間の保温を確実に実施し、急激な外気導入を避けるなど温度管理に留意し、実止まり確保に努める。

(2) 開花中のなし、りんご、おうとう等では、可能な限り受粉を行い結実を確保する。

(3) なしの黒星病やセイヨウナシ褐色斑点病は感染好適条件が継続しやすいので一定間隔の防除を継続する。

4 花き

(1) 施設栽培では、低温時、ハウス内温度を保つため、内張り資材を被覆する。

(2) 無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。

(3) 球根養成栽培では、低温が続くと褐色斑点病等の発生が懸念されることから、予防的な防除を行う。